

令和5年度 学校評価 自己評価書(3学期)

1 学校の重点目標

- 現不登校生徒及び傾向のある生徒の支援継続と新規不登校生の予防
- 学力向上に向けた授業設計力及び指導技術の向上
- 道徳科運用の意義の理解と共通実践内容の正確な把握と資料分析の手法の獲得

2 課題と対策等

	評価項目		職員	評価結果と改善策等
	1-かなり努力が必要	2-努力が必要		
重点項目	【不登校の解消(生徒指導の重点)】 ・不登校生徒・不登校傾向生徒への支援充実(欠時数、欠席日数の削減) ・「希望の登校 笑顔の活動 満足の下校」による新規不登校の抑止 ・より多くのいじめ認知によるいじめの解消		3.2	・改善が見られる ・個人ごとの「次のステップ」の設定と実践が求められる
重点項目	【非認知能力の向上】 ・探究学習(クエストエデュケーション)を核とした学ぶ意欲の向上		4.2	・中学3年生における探究学習は非常に有効であった ・すべての教育活動において探究学習の理念で実践されることが求められる
重点項目	【「業務改善アクションプラン」の確実な運用による子どもと向き合う時間の確保】 ・課題に即した業務遂行、「1Action」「1Try」の実践 ・業務の簡素化、デジタル化 ・「土日における部活動の地域移行」モデル事業の積極活用		3.0	・業務改善は進んでいる ・土日における部活動の地域移行は、さらなる工夫が必要である
重点項目	【鹿児島GIGAスクール構想に準拠したICTの有効活用】 ・ICT機器、タブレット端末等の活用 ・デジタルコンテンツ等の活用 ・校務支援ソフトの活用		3.8	・活用が進んできた ・端末の教室における保管方法を工夫するとさらに活用しやすくなるのではないかとデジタルコンテンツを積極的に活用していく
重点項目	【特別支援教育の充実】 ・切れ目のない引継ぎ ・全校体制での個別最適な学習の追求		3.5	・全校体制で臨むことを意識した ・係を中心に、校種間での引継ぎが密に行われた ・日ごろの教育相談にも入級・通級指導の概念をもって臨むことが必要である
重点項目	【コロナ禍における最適解の追求】		3.7	・十分に最適解を求め続け、その時々に応じた対応を行えたものとする
重点項目	【信用失墜行為等不祥事根絶に向けた取り組みの充実】 ・職員研修の充実 ・職員朝会、職員会議、校長室だより等での定期的な指導		4.3	・十分に意識した ・同僚性を発揮し、新たな不祥事を生じさせないようにしたい
重点項目	【学力向上に関する取組】 ・Web問題、過去問題等の活用常態化による「わかる」から「できる」へ変遷 ・全教職員の研究授業と授業研究の完遂		4.2	・学力向上を十分に意識して指導にあたった ・生徒の理解度と満足度が二極化しつつある ・全職員の研究授業を行った。より計画的に進めるとよかった。
保健指導	【体力の向上と健康教育の充実】 ・体力向上に向けた取組 ・部活動の推進と各種健康講話の充実		3.9	・体育課を中心に、定期的な取り組みが継続された。 ・体力は徐々に向上してきた ・講話活動の精選を行い、各回の内容を充実させることができた
小中連携	【小中連携の取組】 ・喜入地域小中連携研修会、サポートチーム会議 ・相互の授業参観		3.0	・合同研修会等の場が設定されてはじめて、小中連携を意識する職員が多数である ・普段から小中連携を意識できる工夫が求められる ・小学校への出前授業や、職員による小学校運動会への来訪などを行った
地域連携	【地域とともにある学校】 ・学校運営協議会との協働 ・喜入地域体育大会、喜入地域文化祭		3.3	・学校運営協議会の内容を充実させることができた ・各地域の行事に参加したり、校内での開催に協力したりするなど、地域との連携を意識した取り組みを行った ・次年度は本校グラウンドで地域体育大会を実施する
地域連携	【「信頼される開かれた学校づくりの推進」に関する取組】 ・鹿児島ユナイテッドFC等の地域人材の活用 ・保護者、関係機関との連携等		3.7	・地域人材の活用に課題が残る。工夫の余地が十分にある。

3 次年度に向けての取組

- 探求学習を、総合的な学習の時間を出発点とし、教育活動全体に落とし込んでいきたい。そのための実践と評価、改善が必要である。
- 不登校及び不登校傾向の生徒について、育成の視点をもって対応にあたる。個に応じた目標を適時設定し、複数の目で育てていく必要がある。